

記憶の遊具と共に育む

～世代を越えて心惹かれるオフィス～



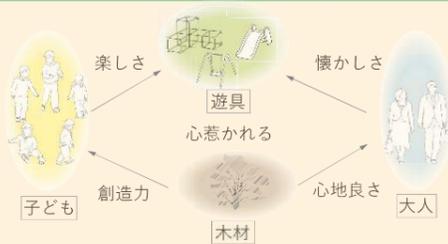
1 設計主旨

1-1 社会背景



共働き世帯が増加し、多くの人が働きながら子育てできる場所を求めている。大人と子どもが共にのびのびと過ごすことのできるオフィス空間を提案する。

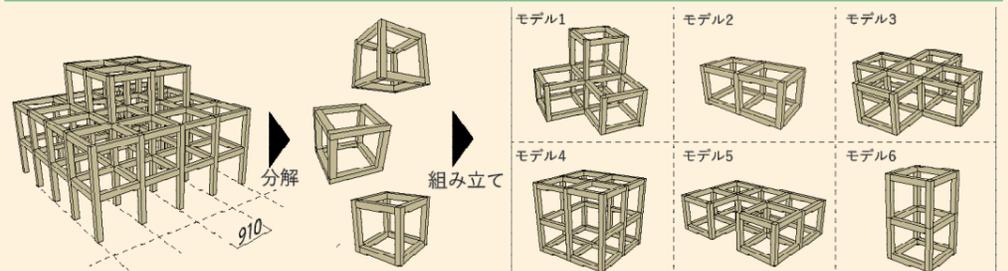
1-2 大人と子どもの繋がり



仕事をする大人と、楽しく遊ぶ子どもを繋ぐものとして「遊具」での楽しい思い出を活用する。木材のぬくもりを通して、人を育てていく。

3 大人と子どもをつなげる遊具

3-1. ジャングルジムから考える6つの形態モデル



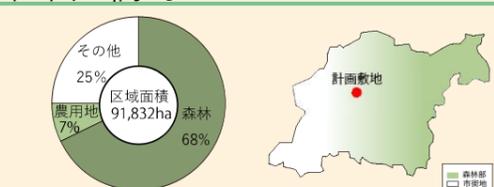
「格子状で突き通るような開放的空間」と「複雑で入り組んだ閉鎖的空間」の2つを合わせ持つジャングルジムの大人と子どもを繋ぐ共通の「心惹かれる空間」と考える。ジャングルジムから抽出した910mm立方体を1つのユニットとして組み替えていく。そこで作られた6つの形態が、大人と子供が混じり合う空間としての価値を見出す。

3-2. 大人と子供の行動の要素から生まれる心惹かれる空間

	①遊ぶ	②絵を描く	③潜り込む	④滑べる	⑤のぼる	⑥共に過ごす
子供の動作						
大人の動作	①集中する	②話し合う	③談話する	④休憩する	⑤収納する	⑥共に過ごす

私たちは、ジャングルジムからできる空間に価値を見出し、大人と子どもの動作から生まれる6つの「心惹かれる空間」の可能性を検討した。空間構成に用いる形は同じでも、大人と子どもではまったく使い道が異なる。6つの形態から構成される空間は使い手にとってそれぞれの居場所となり、心惹かれる空間を構築する。

2 計画敷地 - 愛知県豊田市平戸橋町 -



豊田の森林面積 人の暮らしと森をつなぐ
豊田市における森林面積は約7割を占め、愛知県内で最も広く、木材資源の活用が推奨されている。計画敷地である平戸橋町は、主要駅から徒歩圏内にありながら、豊かな自然を感じられる土地である。この場所は、市街地と森林を結ぶ接続点としての役割が期待される。

4 活用提案



規格よりも少し広めの空間を設けることで、子ども同士が親密な関係を築きやすくし、さらに遊具の楽しさを体験するきっかけになる。

二方向にトンネルを設け、内部で子ども同士が出会う仕掛けを作った。910mmの間隔は人がすれ違うにはやや狭く、親密感が生まれやすくなる。

区画にネットを設け、子どもが登りやすい空間を作った。登ることは重要な要素であり、安全面から大人が見守れる高さで設計した。

あえて背面をグリッドに向ける配置にすることで、視線が合わず、適度な距離感を保てる落ち着いた空間を作り出している。

建物の一部を本棚にすることで、空間を有効に活用し交流の場を作り出す。子どもたちも本を通じて交流できることを期待する。

座る場所を交互に配置することで、子どもと大人をつなぐ居場所空間を作り出す。高さを低く設定し、壁で仕切らず多世代の交流を促進する。



本棚となる格子状の木材が落ち着いた空間を生み出す。

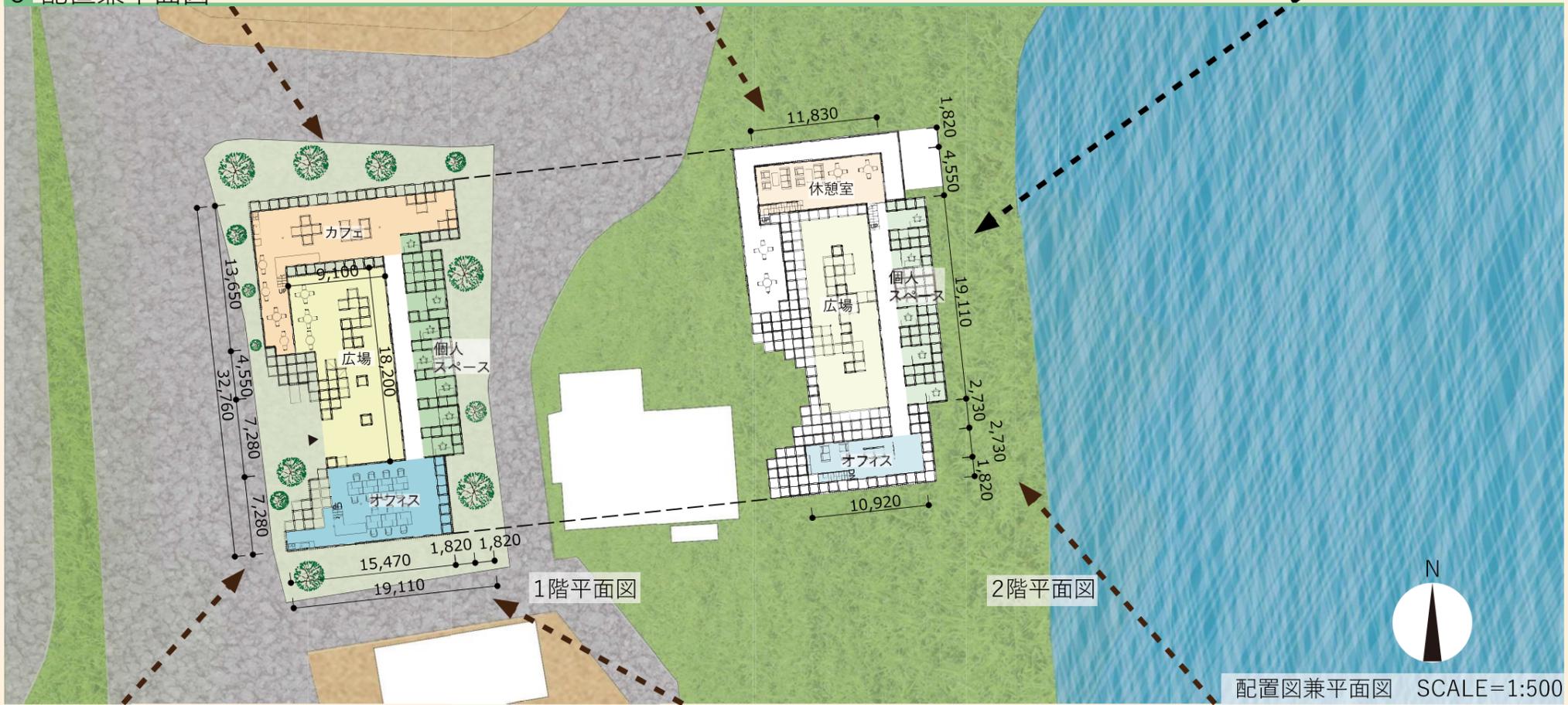


グリッドから漏れる日の光から、親と子の交流を生み出す。



ランダムに配置されたグリッドが集中できる空間を生み出す。

5 配置兼平面図



配置されたグリッドが子どもの冒険心をくすぐる。



木材に囲まれた空間が新鮮さを生むオフィス。



モデルから組み立てられた空間が子どもの心を惹く場へと変わる。

5 立面図



西側立面図 SCALE=1:300



東側立面図 SCALE=1:300

6 断面図



南北断面図 SCALE=1:200

7 面積表

敷地面積	960.52㎡
建築面積	521.65㎡
1階床面積	268.69㎡
2階床面積	241.68㎡
延べ床面積	510.37㎡